2026年8月

乳がん高度検診・治療センター
NEW－す
No.132

HER2陽性の進行再発乳がんに対する新たな治療薬 ～ツカイザ®の登場～

HER2陽性の進行再発乳がんに対する治療薬としてツカイザ®（一般名：ツカチニブ）が本年（2026年）4月に発売されました。近年HER2陽性乳がんに対する治療薬は増えましたが、そこにまた新たな選択肢が加わったことになります。今回のセンターニュースではこの新薬について紹介します。

ツカイザ®とは？

ツカイザ®は乳がん細胞にあるHER2（ハーツー）の働きを抑える薬剤で、チロシンキナーゼ阻害薬というカテゴリーに属する新薬です。

同じチロシンキナーゼ阻害薬としてはすでにタイケルブ®という薬剤がありますが、タイケルブ®がHER2以外にEGFR（上皮成長因子受容体）も同程度に阻害するのに対し、ツカイザ®はEGFRよりHER2によりより高い阻害作用を持つとされます。

ハーセプチン®が、がん細胞の外側からHER2の働きを抑えるのに対して、ツカイザ®は、がん細胞の中に入り、細胞の内側からHER2を攻撃するのが特徴です。したがって、この両薬剤を併用することによりHER2を細胞内外から二重に阻害することで効果の増強が期待されます。

ツカイザ®の対象と使用方法

ツカイザ®の対象となる患者さんは、添付文書では「化学療法歴のあるHER2陽性の手術不能又は再発乳癌」とされており、HER2陽性進行再発乳がんのどの段階で使用すべきかの規定はありません。ただ、効果が確認された臨床試験では、ハーセプチン®、パージェタ®およびカドサイラ®による治療歴がある患者さんが組み入れられましたので、これらの薬剤を使用した後の患者さんが対象になります。ただ、近年エンハーツ®（乳がんセンターニュース No 97, 98, 108参照）がHER2陽性乳がんの治療体系を大きく変化させていますので、ツカイザ®の使用は、エンハーツ®も視野に入れた治療戦略の中で、どの時点で本剤を使用するかが今後の課題となるでしょう。

ツカイザ®は経口剤ですが、ハーセプチン®およびゼローダ®（一般名カペシタビン）と組み合わせて使用されます。

HER2陽性乳がんに対する治療薬（一般名）	
抗HER2抗体	ハーセプチン®（トラスツズマブ） パージェタ®（ペルツズマブ） フェスゴ®（ペルツズマブ・トラスツズマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ）※
抗体薬物複合体	カドサイラ®（トラスツズマブ　エムタンシン） エンハーツ®（トラスツズマブ　デルクステカン）
チロシンキナーゼ阻害薬	タイケルブ®（ラパチニブ） **ツカイザ®（ツカチニブ）**

※ハーセプチン®とパージェタ®の合剤

ツカイザ®の効果とその特徴

ツカイザ®をハーセプチン®およびゼローダ®と併用した臨床試験で生存期間を延長することが示されました。特徴的なことは、すでに多くの治療歴がある患者さんにおいても、効果が確認されたことです。特に、脳転移のある患者さんでも有効性が示されたことは注目すべき点です。

ツカイザ®の副作用

特に注意が必要な副作用	肝機能障害、重度の下痢、心機能障害、間質性肺疾患、など
頻度の高い副作用	下痢、手足症候群、悪心・嘔吐、疲労、口内炎、食欲減退など

ご質問等がありましたら、医師またはスタッフまでお気軽にお問合せください。

市立貝塚病院
Kaizuka City Hospital

乳腺外科　稲治英生